

コメント2 アメリカにとってのBRICS

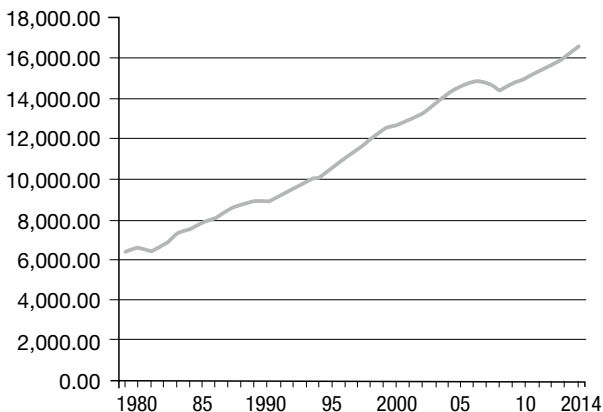
大津留(北川) 智恵子 関西大学法学部

本日は、一般的にBRICSとよばれる集団を構成する国の中で、南アフリカ以外のブラジル、ロシア、インド、中国という4か国についてのご報告がありました。それでもう十分語り尽くされていると思いますが、BRICSという集団をその外側から警戒感も持って観察してきたアメリカが、今経済的にどのような状況にあり、またBRICS諸国の動きにどう対応していこうとしているのかという観点から、少しだけコメントさせていただきます。

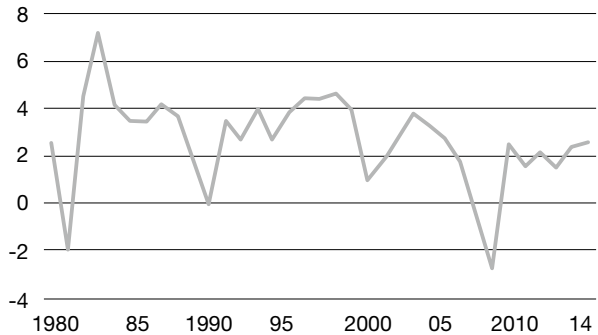
本日のご報告の中では、アメリカの経済が相対的には低下をしているということが何度も指摘されています。私は2週間ほど前にアメリカに出張していましたが、日本からアメリカに行くと、数年前までの停滞感はなく、「最近のアメリカって豊かだ」と実感します。停滞する日本経済の裏返しとして受ける印象なのだと思いますが、絶対的な経済力の推移でみると、アメリカの経済は低下しているわけではないのです。

アメリカ経済の相対的な後退

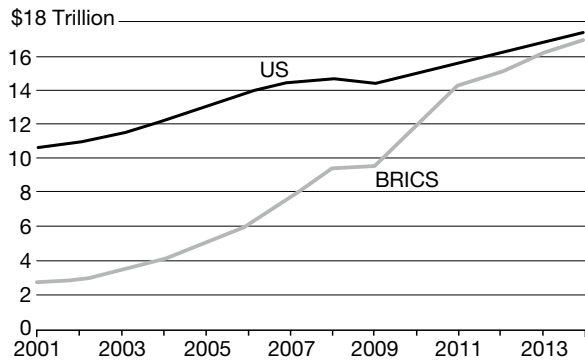
アメリカの近年の国内総生産(GDP)の推移を示したのが、資料5-1です。これを見ていただくとわかりますが、アメリカ経済だけに光を当ててみると、決してアメリカが貧しくなっているわけではありません。このことは、前年比を示した資料5-2でより明白に表れています。よく指摘されるように、2008年のリー



資料5-1 アメリカGDPの推移(単位10億ドル)
出典: IMF(annual).



資料5-2 アメリカGDPの対前年比(単位%)
出典: IMF(annual).



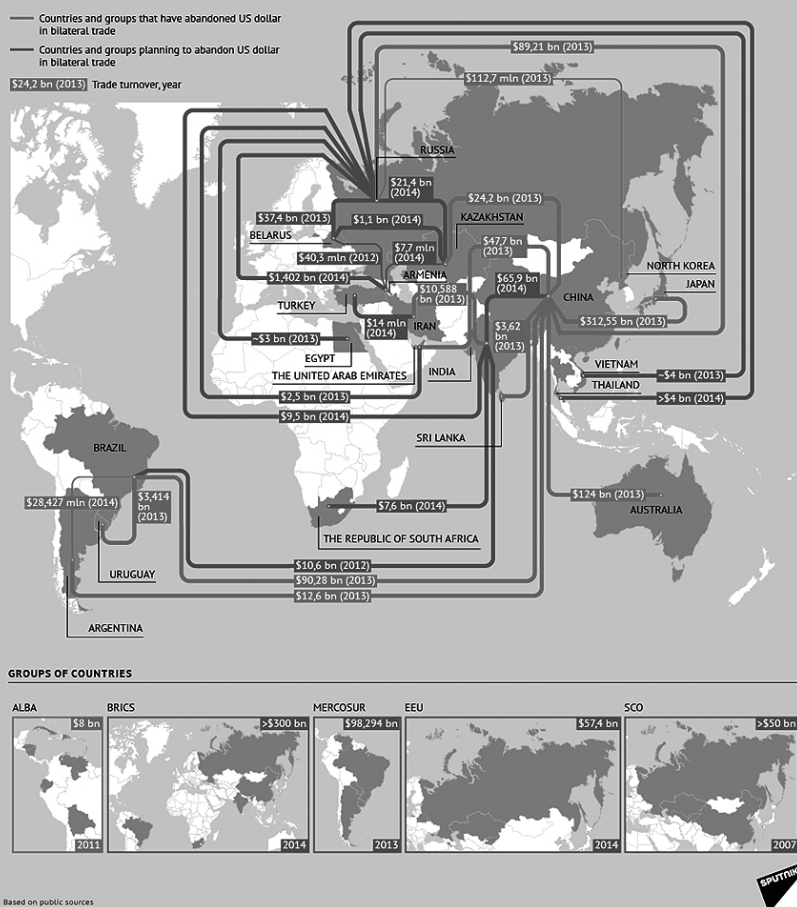
資料5-3 大きさがものをいう
BRICSの経済がアメリカを追い上げる
出典: Bloomberg(2015).

マン・ショックでは前年比で大きな落ち込みがありましたが、2010年には既に回復し、前年比3パーセント程度で経済が拡大しています。つまり、今のアメリカを国内から見ると、アメリカがその経済力の低下に危機感を持っているということではないのです。

それでは、どこからアメリカの不安が生じているかということ、世界に目を向けると相対的に経済の伸び率が高い国が存在していることで、自分たちの国の力が弱められているということを感じています。その成長の早い国の筆頭となっているのが中国です。資料5-3は、経済成長率の高いBRICSの国内総生産の合計とアメリカのそれを比べたものです。近年のBRICSの経済力の合計の伸び方は緩やかになっていますが、それでも21世紀になってからこれらの国々が追い上げてきていることを、アメリカは実感しています。

Dollar No More

Countries and international groups that have switched from US dollar to national currencies in trade



資料5-4 ドルはもういない？

出典：Sputnik(2015).

ただ、資料5-3ではBRICSの経済力の合計とアメリカか国の経済力を比較しているのですが、アメリカ自身がBRICSをどこまで一つの集団として意味のあるものであると認識しているのかは、確かではありません。本日は、集団としてのBRICSという枠組みの中で各国の議論が出ていたのですが、そもそも中国、インド、ロシア、ブラジルという個々の国の経済力の伸びとは別に、BRICSという集団としての経済の伸びが、現在アメリカにとってどのような意味を持っていると考えられているのかについては、明確な答がなかなか見出せません。

本日の討論者の役を頂戴してから、一所懸命にアメリカ政府のいろいろな省庁のウェブサイト“BRICS”というキーワードで検索したのですが、10年前ぐらいのものは結構出てくるのですが、ここ2、3年の情報に関しては、“BRICS”というキーワードではほとんど何もヒットしないのです。ということは、アメリカ政

府のなかの認識として、BRICSという単位の意義がかなり薄くなってきているのかなという気がします。そういう表面的な調べ方で感想を申しあげてはいけないのですが、個々の構成国の経済力の伸びは意識する一方で、総体としてのBRICSという存在に関しては、アメリカではそれほど意識されなくなっているのではないかと思います。

ただし、アメリカ連邦政府のサイト以外では、アメリカの力がBRICSに対して相対的に弱体化していることを示唆する情報は種々入手することができます。例えば、ロシアの通信社Sputnikは、決済手段としてのドルの役割が低下しているという図を示しています(資料5-4)。日本などは、いまだに国際決済に用いる基本的な通貨はドルになっていますが、BRICSをはじめとし、他の地域や地域機構ではドル以外が決済通貨の役割を果たすようになってきている状況がわかります。つまり、ドルが必ずしも国際経済における中心的な通貨だと認識されていない地域が増えているということです。

そして、その流れで言及されるのは、第2次世界大戦後、今日まで続く国際経済秩序の柱を成してきたブレトン・ウッズ体制が、もう意味を失ってきているのではないのかという議論です(Nazemroaya, 2015)。少なくとも、ブレトン・ウッズが国際経済秩序の唯一の柱ではなくなってきているのではないか、という論調を目にします。

対抗秩序の出現、複数の秩序の併存

それでは、ブレトン・ウッズ体制に対抗するものとして何が出現してきているかということ、中国を中心とする「シルク・ワールド・オーダー」という言葉を目にします。私は初めて耳にした言葉だったのですが、その秩序の一環として言及されるものには、上海協力機構、アジア・インフラ投資銀行、あるいは今日も少し話が出てきた「一帯一路」、そしてシルクロード基金などがあります。あるいは、ロシアが関わるものとしてはユーラシア経済連合が言及されたりしています。このような様々な秩序が生まれてくることによって、ブレトン・ウッズ体制が世界の唯一独占的な秩序ではなく、他の秩序も同時に並存するようになっていくというわけですね。

それでは、新たな秩序がブレトン・ウッズを全て置き換えることができるのか、あるいはこちらの秩序か

あちらの秩序かという二者選択しかあり得ないのかという疑問が生じます。それに対する答は論者によって異なると思いますが、こうした対抗的な秩序は必ずしも反米的ではなく、そもそもアメリカの外側に置かれていたものが、そこでなんらかの影響を持つ秩序を作ろうとしたということであって、既存のアメリカの秩序と共存してもおかしくはない、という論調もありました(Hsu, 2015)。私自身はこうした議論を日常的に研究している者ではないので、2つの秩序が二者選択でどちらかしか残れないということでは必ずしもなく、むしろそうした複層的な世界が始まりつつあるのではないかという指摘には、興味を持ちました。

何か新しいシステムが出てきて、従来からあるアメリカのシステムに対抗すると、それらはゼロサムの関係に置かれてしまうという考え方があります。しかし、何か新しいシステムが出てきても、それがアメリカのシステムと並存することが可能ならば、その結果としてもしかしたらポジティブ・サムの方向へと国際秩序が動いていくのかもしれない。そして、その際の「ポジティブ・サム」なのか「ゼロサム」なのかという判断は、誰の立場から見ているのか、どこを目指してその国際秩序を変えていこうとしているのかによって、違う結論が出てくるのではないかと思います。今はまだ、これがその結論ですというまで私自身の考えがまとまっていないのですが、そうした方向性を感じています。

新秩序への懸念材料

このように、BRICSの総体としての経済力がアメリカにほぼ匹敵するようになってきて、アメリカの秩序に加えて新しい秩序というものが、もう一つ並存するようになったと思われるようになりました。ところが、先ほどの中国のご報告にもあったように、この夏の展開は中国经济がやはり不安定なものだということを前面に押し出しました(Soergel, 2015)。それだけではなく、国際秩序とは経済だけで成り立つものではなく、経済と同じほどに、あるいは国によっては経済よりも大きな要素として、政治的な側面あるいは軍事的な側面も考えられているわけです。

そうした政治的な側面、あるいは軍事的な側面から見たときに、アメリカの国際秩序に対抗するように出現してきている秩序が、世界の国々にとって安心して受け入れられる秩序なのかという懸念材料が見えて

きます。もちろん、こうした言い方をすると、「アメリカの秩序は安心して受け入れられるのか。そんなものこそ受け入れられないのではないか」という反論をいただきそうですが、それでも、アメリカに対抗する国が提示している秩序には、かなりの懸念材料があることは確かです。先ほどから出ているように、ロシアの近年の国際的な文脈での行動や、中国による軍事力の強化は、これらの国が目指す秩序がどこに向かおうとしているのかについて考えながら、そうした秩序の持つ意味を議論していかざるを得ないと思います。

アメリカ自身の不安定要因

こう述べても、アメリカを中心とした秩序がより確実であると主張しているように聞こえますが、実は2週間前にアメリカに行って私が感じたことは、「アメリカは大丈夫なのか」という懸念です。今日のアメリカは、かなり無茶苦茶な政治をしています。

私の滞在がローマ法王のワシントン訪問と重なってしまい、議会での調査ができなかったもので、テレビ報道を見ることに専念していました。すると、法王が連邦議会で演説をした翌朝に、カトリック教徒であり、法王演説のお膳立てをしたベイナード下院議長が辞任を宣言したのです。なぜ辞任を宣言したのかというと、自分たちの身内である共和党議員の中に、機能する政策を作っていくことには関心を持たず、自分たちの価値観だけを追求しようという、ティーパーティーと称される議員たちが、議長の不信任を何度も試みていたのです。議長はもうこれ以上その対応に追われたくないという気持ちから、辞任を決意したのです。さらに、つい先日は、議長に次ぐ役職にあり、当然次の議長選に出て下院議長になるはずであった議員も、議長選に出ることを辞退しました。この議員も、党内の突出した議員たちを宥めながら議会運営をしたくないということで、現在のアメリカの国内政治は非常に不安定な状態にあります。

2016年には大統領選挙があります。先ほど国内政治が大事だとのご発言がありましたが、それはBRICSの国々の場合だけではなく、アメリカ自身にとっても国内政治は大切です。そして、自国の国内政治すら十分にリードできないアメリカが、世界をリードする立場にまだまだ立ち続けている。そういう中で私たちは国際社会の方向性を考えなくてはいけないという、難しい立場に立たされているのだと思います。

横道に逸れてしまったお話を、今日の話題に戻します。今日のシンポジウムはBRICSという単位で行なわれていて、たしかに報道写真でもBRICS首脳が一致団結して存在感をアピールしたりしているのですが、今日のご報告からも、単位としてのBRICSがどのくらい意味を持つものであり、逆にBRICSの個々のアクターこそがどのくらい意味を持つと考えるべきなのかが疑問として残りました。報告者をご専門にされている国によっては、「いや、BRICSは大事なんだ」という、BRICSがあって初めて自国が重みを持てる国もあれば、「BRICSは使えるけれども、それがなくても私たちの国の力はある」という、BRICSという枠組みに依存しない国もあると思います。そういった、いくつもの顔を持つ集合体として存在するBRICSを、私たちがどのように理解し、対応していくべきなのかについて、それぞれのアクターを専門とされる個々のご報告者からうかがえれば面白いと思いました。

参照資料

- Bloomberg. 2015. Size Matters: BRISC Economies Catch U.S.: Largest developing economies gain influence amid turmoil, distance (July 8), at <http://www.bloomberg.com/news/videos/2015-07-08/size-matters-brics-economies-catching-up-to-u-s-> (2015年9月24日閲覧)。
- Hsu, Sara. 2015. “China in BRICS: A Threat to US Power?” *The Diplomat* (July 11) at <http://thediplomat.com/2015/07/china-in-brics-a-threat-to-us-power/> (2015年9月24日閲覧)。
- IMF (International Monetary Fund). annual. World Economic Outlook Database, at <http://www.imf.org/external/data.htm> (2015年9月30日閲覧)。
- Nazemroaya, Mahdi Darius. 2015. “The US Dollar and Bretton Woods are Finished: The BRICS/SCO Summits in Ufa Mark the Start of a ‘Silk World Order,’” *Global Research* (July 10) at <http://www.globalresearch.ca/the-us-dollar-and-bretton-woods-are-finished-the-bricssco-summits-in-ufa-marks-the-start-of-a-silk-world-order/5461828> (2015年9月24日閲覧)。
- Soergel, Andrew. 2015. “BRICS Bloc Faces Cloudy Future,” *U. S. News and World Report* (September 15), at <http://www.usnews.com/news/articles/2015/09/15/brics-bloc-faces-cloudy-future> (2015年9月24日閲覧)。
- Sputnik. 2015. “Dollar No More” (April 15), at <http://sputniknews.com/infographics/20150430/1021575551.html> (2015年9月30日閲覧)。